



## 「十字架の主を見上げ続ける」

～聖霊様によって変えられる～

「私たちクリスチャンは、心に覆いなど掛けてはいない。主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと進み、主に似た者とされていく。これは、御霊であられる主がしてくださるのである。」  
コリント人への第二の手紙3章18節 [現代訳]

本日の礼拝はイースター(主のご復活をお祝いする日)を前にした、主の受難を想う特別な礼拝です。本日の礼拝は、主イエス様の受難＝十字架でのお苦しみは、私たちの救いのため(私たちの罪が赦されて、神の子とされて、永遠のいのちを頂くこと)であることを感謝するだけでなく、私たちに示された命懸けの主のご愛に対して、私たちがどのように応答するのか?ということを自らに問う礼拝でもあります。

ルカによる福音書14章の後半には、私たちクリスチャンが主の弟子として歩むための心構えについて書かれています。

「だれでも、わたしのもとに来て、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分自身を愛する以上にわたしを愛する者でなければ、わたしの弟子となることはできません。恥と苦しみと死を意味する十字架を背負い、わたしに従って来る者でなければ、わたしの弟子となることはできません。…。そういうわけで、よく考え、自分の財産に対する執着を断ち切る者でなければ、わたしの弟子になることはできません。(26・27,33節:現代訳)」

この世で主の弟子として、クリスチャンとして歩んで行くために、私たちは何があっても、主を第一としなければその人生を全うすることができないことを示しています。それは日々の闘いです。水の上を歩いたペテロのように、主を見上げて歩み続けなければ、恐れや不安で一杯になって、すぐに溺れてしまうのです。

しかし、本日聖書箇所では、私たちは栄光から栄光へと主に似た者となるように成長させられる。それは、聖霊様のお働きであるのだとパウロは告白しています。主に従うこと、主から頂く私たち自身の十字架を背負い続けるためには、聖霊様の助けが不可欠であるということであり、聖霊様のお助けを頂くことで、私たちの人生は主のように栄光に輝いたご復活のお姿へと変えられていくのだと信じます!

聖霊様の慰め、励ましのお力をいただくためには、私たちの霊が敏感でなければなりません。この世の誘惑や心配事など、様々な情報によって振り回されている間は、その主の御声は聞こえてきません。静まって、止まって、今していることを中断して、主の語りかけを聞いていく必要があります。それがたとえ牧師先生や信頼のおける兄弟姉妹の言葉だったとしても、主ご自身から直接お聞きしていくという作業が必要なのです。